(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-149621
(P2004-149621A)
(43)公開日　平成16年5月27日(2004.5.27)

| (51)Int.Cl.[7] | F I | テーマコード（参考） |
|---|---|---|
| C09J 7/00 | C09J 7/00 | 4J004 |

審査請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 5 頁）

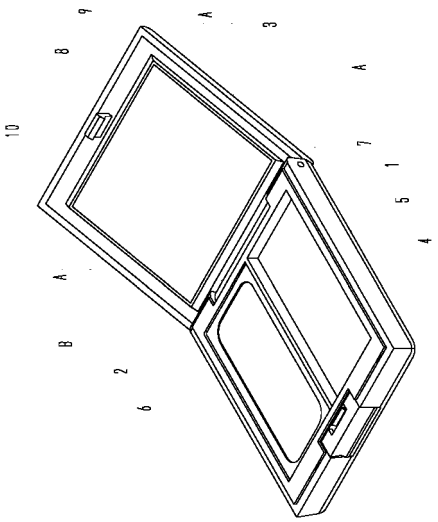
(21)出願番号　特願2002-314588(P2002-314588)
(22)出願日　平成14年10月29日(2002.10.29)

(71)出願人　000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号
(74)代理人　100105326
弁理士　吉村　眞治
(72)発明者　碓井　信男
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内
(72)発明者　鈴木　一男
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内

Ｆターム(参考)　4J004 AB01　CB03　CC02　CC07　DB02　EA05

(54)【発明の名称】接着テープ

(57)【要約】
【課題】貼着時に接着テープの接着シートと被接着物との間に空気が巻き込まれて空気溜まりが形成されないようにした接着テープ、および該接着テープをコンパクト容器に適用し、鏡を容器蓋体の接着時に、鏡と接着テープの間、接着テープと蓋体との間に空気溜まりやしわができないようにした透明または半透明のコンパクト容器を提供すること。
【解決手段】接着シートと剥離シートとからなる接着テープであって、接着シートと剥離シートを貫通する微細孔を穿孔し、両面接着テープとして、接着シートと少なくとも一方の剥離シートを貫通する微細孔を穿孔する。コンパクトの鏡面の接着手段は、両面接着テープをコンパクト容器に適用し、鏡を透明、または半透明の蓋体に貼着する。
【選択図】　図１

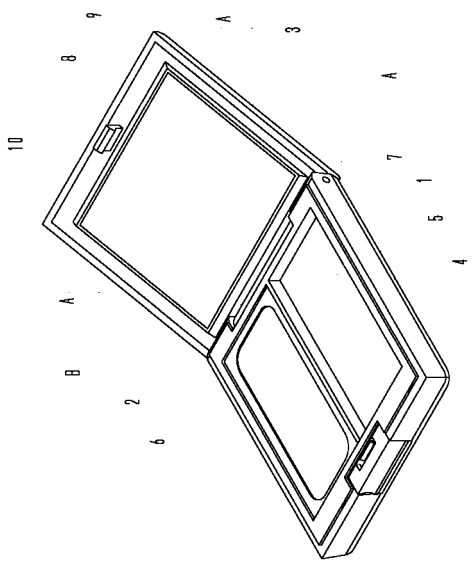


【特許請求の範囲】
【請求項１】
接着シートと剥離シートとからなる接着テープであって、
接着シートと剥離シートを貫通する微細孔を穿孔したことを特徴とする接着テープ。
【請求項２】
接着シートと剥離シートとからなる接着テープであって、
接着シートと少なくとも一方の剥離シートを貫通する微細孔を穿孔したことを特徴とする両面接着テープ。
【請求項３】
微細孔が、縦横に配列された円形孔、または切込み目であることを特徴とする請求項１または２記載の接着テープ。
【請求項４】
請求項２記載の両面接着テープを用いて、鏡を透明、または半透明の蓋体に貼着したことを特徴とするコンパクト容器。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、接着テープ、とくに接着シートと剥離シートを貫通する微細孔を穿孔した接着テープに関する。
【０００２】
【従来の技術】
分別廃棄のために、化粧鏡を接着テープを用いてコンパクト容器の蓋体に取着することは従来より知られている（例えば、特許文献１参照。）。
【０００３】
【特許文献１】
特開平１１－１６９２２８号公報
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
しかしながら、接着テープの接着シートを、鏡裏面または蓋体の接着面に貼着した場合、接着シートと被貼着面との間に空気が巻き込まれ、細かい空気溜まりやしわが形成されることがあった。
そのため、容器が透明或いは半透明であると、容器蓋体の外側から接着テープの空気溜まりによる模様やしわが見えることになり、外観が損なわれるという問題が生じることになった。
【０００５】
また、コンパクト容器に限らず、接着時に、接着シートと被接着物の貼着面の間に空気が巻き込まれ、空気溜まりが形成されることになると、その分だけ接着面が少なくなり、接着力が落ちるという問題があった。
【０００６】
本発明は、上記の問題点を解決することを課題とし、貼着時に接着テープの接着シートと被接着物との間に空気が巻き込まれて空気溜まりが形成されないようにした接着テープ、および該接着テープをコンパクト容器に適用し、鏡を容器蓋体の接着時に、鏡と接着テープの間、接着テープと蓋体との間に空気溜まりやしわができないようにした透明または半透明のコンパクト容器を提供することを目的とする。
【０００７】
【課題を解決するための手段】
本発明は、上記の課題を解決するため、接着テープとして、接着シートと剥離シートとからなる接着テープであって、接着シートと剥離シートを貫通する微細孔を穿孔したことを特徴とする構成を採用し、両面接着テープとして、接着シートと少なくとも一方の剥離シートを貫通する微細孔を穿孔したことを特徴とする構成を採用する。

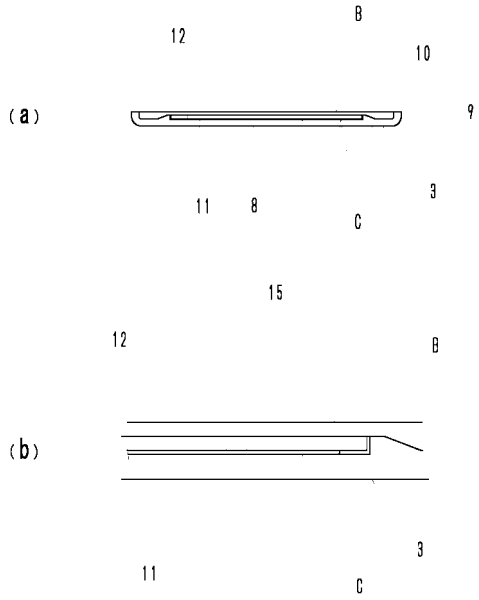
【０００８】
微細孔の実施例として、微細孔が、縦横に配列された円形孔、または切込み目であることを特徴とする構成を採用する。
【０００９】
コンパクトの鏡面の接着手段として、接着テープは、両面接着テープとし、該両面接着テープをコンパクト容器に適用し、鏡を透明、または半透明の蓋体に貼着したことを特徴とする構成を採用する。
【００１０】
【発明の実施の形態】
次に、本発明の両面接着テープを用いて鏡を貼着したコンパクト容器について、図面を参照して説明する。
図１において、Ａはコンパクト容器、Ｂはコンパクト容器Ａの蓋体に貼着された鏡である。
【００１１】
コンパクト容器Ａは、ケース本体１と、該ケース本体１に蝶番２を介して廻動自在に取着された蓋体３とからなっている。
ケース本体１は、底壁４と側周壁５とからなり、内部には、化粧料入れ６とパフ入れ７が設けられている。
【００１２】
図１，２に示すように、蓋体３は、頂壁８と側周壁９とからなり、頂壁８の裏面には、鏡Ｂの貼着位置を指定する枠１０が設けられ、貼着面１１が形成されている。
鏡Ｂは、その裏面を貼着面１２として、枠１０内において、両面接着テープＣを用いて、頂壁８裏面の貼着面１１に貼着されている。
【００１３】
図３に示すように、両面接着テープＣは、公知のものと同様に、接着シート１５とその表面、裏面に配設された剥離シート１６とからなっており、接着シート１５と両面または片面の剥離シート１６を貫通するよう、全面にわたって等間隔を隔てて縦横に並列される微細孔１７が穿孔されている。
微細孔１７は、図に示すような微細な切込み目、或いは微細な円形孔でもよい。
また、単位面積当たりの穿孔数がほぼ一定であれば、微細孔１７が模様を描くように配列してもよい。
【００１４】
鏡Ｂの蓋体３の貼着面１１に対する貼着は、まず、鏡Ｂの貼着面１２に一方の剥離シート１６、片面が図３（ｃ）に示す微細孔のない剥離シート１６ａである場合はその側の剥離シート１６ａをはがして、両面接着テープＣの接着シート１５を貼り、次いで、両面接着テープＣの他方の剥離シート１６をはがして、接着シート１５を蓋体３の貼着面１１に貼ることによって鏡Ｂを蓋体３に貼着するようにしているが、反対に、始めに蓋体３の貼着面１１に両面接着テープＣを貼着し、次いで、鏡Ｂを両面接着テープＣの接着シート１５に貼着してもよい。
【００１５】
次に、本発明の作用効果について説明する。
両面接着テープＣの鏡Ｂへの貼着にあたって、両面接着テープＣ片面の剥離シート１６、剥離シート１６ａである場合はその側の剥離シート１６ａをはがして、接着シート１５を鏡Ｂの裏面の貼着面１２に貼着していくときに、両面接着テープＣと鏡Ｂとの間に空気が巻き込まれた場合、空気は、微細孔１７を通じて両面接着テープＣの反対側から放散され、接着シート１５と鏡Ｂの貼着面１２との間に空気が残ることはない。
したがって、両面接着テープＣの表面は、空気溜まりやしわが形成されることなく平滑な表面となる。
【００１６】
次いで、鏡ｂの蓋体３の貼着面１１への貼着にあたっては、剥離シート１６を剥がしたと

きには、接着シート１５の貼着面は、鏡Ｂ裏面と同様の平滑な面となっており、貼着にあたって、空気を巻き込むことはないので、蓋体３の貼着面１１と接着シート１５との間に気泡、空気溜まりができない。
したがって、蓋体３の頂壁８表面から見た場合には、空気溜まりによる模様やしわは現れないので、外観が損なわれない。
【００１７】
上記実施形態では、コンパクト容器Ａに鏡Ｂを貼着するための両面接着テープＣについて説明したが、一般品の接着、例えば、板状の透明体の裏面に、板体等を接着する場合に、上記実施形態の両面接着テープＣを適用すると、板状透明体の裏面に巻き込まれた空気によって空気溜まりの模様やしわが形成されないように、接着テープを貼ることができる。
【００１８】
前記実施形態では、両面接着テープについて説明したが、接着シートと剥離シートを貫通する微細孔を穿孔することは、片面接着テープにも適用することができる。
接着にあたって、空気溜まりによる模様やしわが形成されず、接着がきれいにできるとともに、空気溜まりにより貼着面の減少がないので、接着力が落ちない。
【００１９】
【発明の効果】
本発明は、上記のように構成されているから、次の効果を奏する。
接着テープに、接着シートと剥離シートを貫通する微細孔を穿孔したことにより、接着テープの貼着時に、被接着体と接着シートとの間に空気を巻き込むことはなく、巻き込まれた空気が気泡として残ったり、空気溜まりを形成することがないので、接着テープの表面に、空気溜まりによる模様やしわができない。
【００２０】
コンパクト容器の透明または半透明の蓋体に鏡を接着する場合、接着テープの表面に空気溜まりによる模様やしわが現れないので、蓋体の外観を損なわない。
【図面の簡単な説明】
【図１】蓋体に鏡を取着したコンパクト容器。
【図２】鏡貼着部の説明図で、（ａ）は図１のＡ－Ａ線における側面図、（ｂ）は図（ａ）の要部拡大図である。
【図３】両面接着テープの説明図で、（ａ）は上面図、（ｂ）は断面拡大図である。
【符号の説明】
Ａ　コンパクト容器
Ｂ　鏡
Ｃ　両面接着テープ
１　ケース本体
２　蝶番
３　蓋体
４　底壁
５　側周壁
６　化粧料入れ
７　パフ入れ
８　頂壁
９　側周壁
１０　枠
１１、１２　貼着面
１５　接着シート
１６、１６ａ　剥離シート
１７　微細孔

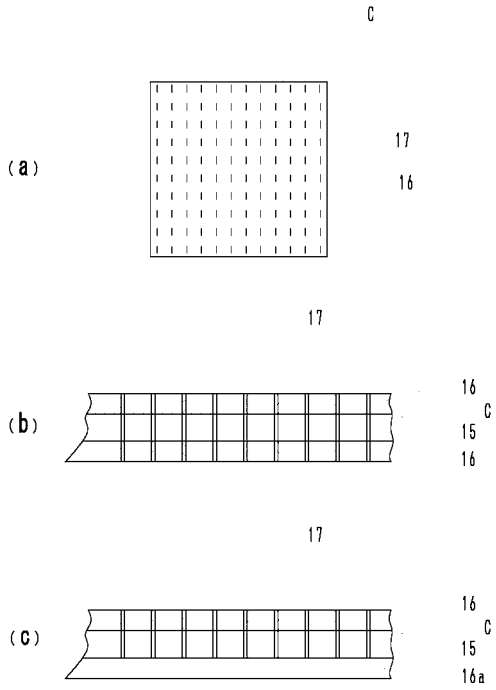
【図１】


9
A
3
8
A
10
7
1
5
4
A
B
2
6

【図２】


B
12
10
(a)
9
3
11
8
C
15
12
B
(b)
3
11
C

【図３】


C
(a)
17
16
17
(b)
16
C
15
16
17
(c)
16
C
15
16a